

所属 総合文化コース	職名 准教授	氏名 岡本 義裕	大学院における研究指導担当資格の有無 (無)
------------	--------	----------	------------------------

I 教育活動			
教育実践上の主な業績	年月日	概 要	
1 教育内容・方法の工夫（授業評価等を含む） ①<講義形式の授業の中で>教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み ②<演習形式の授業の中で>教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み ③<ゼミの中で>教職志望の学生が、単なる知識・技能の習得ではなく、「学び＝教えの本質」への確かな理念・指針を見定め、それに基づく教育実践力の基盤を実感的に築いていくことを目指し、それを、諸講義・演習・ゼミの各機会における内容として相互に関連づけていく取り組み	2016 年 4 月～ 2021 年 3 月 2016 年 4 月～ 2021 年 3 月 2016 年 4 月～ 2021 年 3 月	「教育方法論」「教育課程論」「道德教育の研究（2015 年度からは「道德教育の理論と実践」に科目名変更）」「総合的な学習の時間の指導法」などの講義を通して、学校現場における教育諸実践の本質的な課題（問題点）を、教育の歴史的経緯を踏まえたひとつのコンテクストから見極め、その抜本的解決への指針・方策を見定めていく。その中で、特に探究的な学びの本来の在り方としての「アクティブラーニング」の意義や諸要件（「体験活動や話し合い活動の機能的一連化」「そこでの論理的な話し合い活動の実現」「それらの基盤となる主体・創造・共同的な活動展開」）をアクティブラーニング化して実践理論的に感得していく。 諸講義での内容をより実感的に理解し、自らが教師として実践していくイメージの基盤を築いていくために、「教職実践演習」の授業において、履修メンバーで具体的なプロジェクトを立ち上げ共有し、外大生らしさを発揮しながら、また、社会との関わりを積極的に深めながら、共同で主体性／創造性／探究性あふれる活動を展開していく。そこでは、教師としての立場や視点で、活動をプロデュースし、展開をマネジメントしていく上での資質を高めることをねらいとするのはもちろんのこと、児童・生徒としての立場や視点に立って、「アクティブラーニングを具現化するプロジェクトとしての学び」の意味や意義をあらためて実感的に獲得していく、というねらいも併せ持つことになる。 諸講義や演習にも通ずる主題（ねらい）を、さらに臨床化し、強固な教育実践力基盤を築いていくために、社会との関わりに加えて、教育現場との関わりも積極的に深めていく「社会・学校・ゼミの三者連携プロジェクト」を立ち上げ、取り組んでいく。その中でゼミ学生は、学校や行政機関などとの調整をリードしたり、実際に教室へ出向いて児童・生徒と一緒に討議を重ねながら様々なアイデアを練り上げたりするなど、連携ネットワークの中核的存在として、プロジェクトの具体的な目標（ゴール）の完成・完遂に向け活動をコーディネートしていくことを主な役割として担う。またそこでは、関わり入る学校・学年・学級の中でのゼミ学生の立場や視点を、必要以上に指導・支援する側に置かず、むしろ、児童・生徒・学生が同じ目線に立って一緒に活動を創り上げていくという意識をプロジェクト全体（全成員）に定着させていくとで、活動やそこでの連携	

		の意義が学生にも、児童・生徒にももたらされるよう配慮していく。
④<各種対策講座の中で>教職志望の学生（主に、教育実習や教員採用試験を目前に控えている学生）が、それまでに積み上げてきた実践力や伸ばしてきた資質・適性などをそれぞれの場面で遺憾なく発揮できるよう、（実習・面接）担当者側の視点を想定した心得や予測質問を伝えたり、実地（模擬）体験を通して顕在化する課題を参加者相互に気づき合わせたりする取り組み。	2016 年 4 月～ 2021 年 3 月	教育実習生が、実習授業への漠然とした不安を解消すると共に、具体的な準備課題を明確にすることができるよう、実習対策講座（事前指導の一環）として毎年 4 月末～5 月中旬にかけて計 4 回開催される模擬授業セミナーに参加している。そこでは、授業を担当する学生はもちろん、物理的制約のため参観のみとなる学生も含め、全実習学生が予め指導案等を作成・提出した上でセミナーに出席することにより、授業者の視点で主体的に模擬授業の様子を観察・評価し、そこから自身の課題などを見出していくことになる。 また、教員採用試験受験学生の大半が、その対策講座として毎年 6 月下旬から 8 月中旬にかけて計 4～6 回開催される模擬授業（マイクロティーチング）及び模擬面接（集団・個別）のセミナーを受講している。特に模擬面接においては、より臨床的な場面設定の中で参加学生が具体的な気づきから克服すべき留意点や準備すべき課題を得ることを重視し、実際の面接の流れを模しながら、面接官の人数、それぞれの年齢、キャリアなども実地を考慮して配するなど工夫が為される。
2 作成した教科書、教材、参考書 ①「教育実習」用テキスト（年度毎改訂） ②「教職概論」用テキスト（年度毎改訂）	2016 年 4 月～ 2021 年 3 月 2016 年 4 月～ 2021 年 3 月	実習の開始前から実習序盤、中盤、終盤、終了時、大学帰還という時系列に沿って実習の全体像を掴みながら、スムーズに事前準備に取りかかったり、実習中の様々な問題場面对する解決へのヒントを得たりすることができるよう、実習に関する様々な情報、留意すべき具体的なポイントなどを、過年度実習経験者の体験談や感想なども織り交ぜながら伝える。 教職を目指す学生は、「教職概論」の授業としてまず「学校教育の各方面で豊かな実践経験を持つ現場教諭や指導主事から貴重な話を聞く 5 日間」を受講することで、「学校教育に対する基本的な認識」を獲得したり、「直面している様々な問題の現状」を把握したりすることとなる。その 5 日間を振り返り提出されたレポート群から抜粋・編集された本テキストでは、各自が、先の「獲得・把握されたこと」に基づきながら、あらためて教職課程での学びに対する自らの指針や課題意識を明確にしていくための「手がかり」を掴めるよう、味読され共有されるべき主だった感想や課題意識などを伝える。
3 教育方法・教育実践に関する発表、講演等 ①小学校外国語活動基本研修での指導助言 ②総合的な学習の時間（小・中・高）／国語科（小）／生活科（小）／外国語活動（小）／道徳（小・中）／視聴覚教育（小・中・高）に関する校内研修支援	2016 年 4 月 ～2018 年 3 月 2016 年 4 月～2021 年 3 月	小学校外国語活動を今後、定着・充実させていく上で不可欠な視点や指針、具体的な留意点を、「プロジェクトとしての学び」をキーワードとしながら指導助言する。 A. 総合的な学習の時間の位置づけの中でプロジェクトの発想を取り入れながら展開される外国語活動（英語活動）の在り方についての研修 ・該当年度期間での実績は無し

③総合的な学習（小・中・高）／生活科（小）／外国語活動（小）／道徳（小・中）に関する市内研修組織等支援	2016 年 4 月～2021 年 3 月	B. 生活科及び総合的な学習を探究の学びとして展開する上で見据えるべき「プロジェクトの学び」の視点・指針や、その基本要件となる「話し合い活動」の中核化と機能的体験活動との一体化・一連化についての研修 ・該当年度期間での実績は無し C. 総合的な学習を中核とするプロジェクト型の探究的な学習活動展開において、視聴覚機器の「手段としての機能的な活用」の在り方についての研修 ・該当年度期間での実績は無し D. 探究的な学びにおいて「話し合い活動」を中核に位置づけるための学習活動としての要件、及びそれを論理的な言語活動として展開していくための具体的方略に関する研修 ・2016 年度神戸市立妙法寺小学校：「考え、議論する道徳（話し合い活動充実への具体的な工夫の在り方）」をテーマとした授業実践（自身の研究の一環として）を基に実施された同テーマでの校内研修に講師として参加する。 生活科、総合的な学習、外国語活動、道徳に関する教職員の市内研修組織（神戸市小学校教育研究会各部会等）への、上記理念・指針に基づく継続的支援指導助言、及び、当該組織主催の研修会での指導助言や講演。 ・2018 年度第 68 次 神戸市教育研究集会 No. 21 教育課程分科会に参加し、「『考え、議論する道徳』の実践を通してつかむアクティブ・ラーニングの授業づくり（趣旨と方向性）」と題し指導助言を行った。
4 その他教育活動上特記すべき事項 ①地域（社会）貢献イベントの開催	2016 年 4 月～2021 年 3 月	○学内での英語学習イベントの開催：「教職実践演習」履修学生が、自分たちの語学に関する学修や海外での経験や生かす形で、「生徒にもっと英語に親しみを持ってもらいたい」「英語圏の諸外国の文化に触れ興味を持ってもらいたい」など教職課程履修生としての展望を持ちながら、学校での学びの発展・応用の時間として位置づけられる参加・体験型の英語学習プログラム（特別授業）を開催するプロジェクトを立ち上げ、大学をはじめ、市教委や連携関係の深い中学・高校などの協力を得ながら企画・準備・運営している（2016 年度～2021 年度）。 ・「Connect the world with your cupcake!～世界一周ゲームでトッピングを勝ち取れ！英語でふくらむケーキと夢～」：小学生・中学生・高校生が一同に集まり、世界の文化に関するゲームやクイズ、お菓子（カップケーキ）作りなどのアクティビティに英語を用いながら取り組むことを通して、英語や異文化に対する理解を深めながら、外大生や ALT や留学生との交流を実現することができた（2017 年 1 月 28 日）。 ・「Meet the Gaidai World!」：外大生とふれあい、海外での体験や英語の魅力について知ることによって、高校生の英語学習への内発的な動機を高めるイベント。当日は、

英語を交えたダンスやクイズ、映画の翻訳やアフレコに挑戦したり、英語辞書の謎に関するプレゼンや、ワーキングホリデーや「食」の視点での異文化体験など海外留学にまつわる話を聞いたりするなどのプログラムやブースが用意され、参加した高校生が有意義な時間を過ごした（2017年1月28日）。

- ・「GAIDAI COLLECTION 2018 ～バレンタイン・コードで愛を叫ぼう～」：兵庫県立尼崎小田高校から参加した生徒がグループ（外国人留学生を含む）に分かれ、英語表現による「バレンタインデーの愛を告白」を考案し、それをファッションショースタイルのステージで実演し合う（コンテスト形式で競い合う）、という企画。告白の演出の一部として取り入れるコスチュームや小道具を、生徒たちは英語使用限定の模擬ショップで商品選びや金額交渉を行いながら入手するなど、英語表現に対する積極性やこだわりを発揮させる工夫を盛り込むよう試行錯誤した（2018年1月27日）。

- ・「GAIDAI HOGWARTS 魔法学校」：兵庫県立尼崎小田高校から参加した生徒が、映画『ハリーポッター』の世界観の中で、場面や登場人物の設定を織り込んだミッションやクイズに挑むことを通して、楽しみながら発音や語彙などの力を伸ばしていく、という企画。学生たちは、英語に関する問題としてのクオリティー（難易度や精度）はもちろんのこと、それらに生徒たちが真摯に向き合う雰囲気づくりのための映像技術や小道具にも大いにこだわりながら、企画意図の具現化に向け試行錯誤した（2018年1月27日）。

- ・「外大島からの脱出」：兵庫県立尼崎小田高校から参加した生徒がグループに分かれ、漂着した「英語しか通じない仮想の島」からの脱出を図るため、メンバーで協力ながら、Speaking、Reading、Writing、Listening の知識や技能を駆使して様々なミッションに挑み、褒賞としての筏制作の材料を獲得していく、という企画。学生たちは、それぞれミッションのクオリティー（難易度や精度）が、生徒たちの英語力や英語に対する興味などに即したものとなるよう、当該校の教諭との打ち合わせを対面及びメール連絡等で深めるなど、努力した。（2019年1月26日）。

- ・「Let's Study at KCUFS!」：兵庫県立尼崎小田高校から参加した生徒が、入国審査やカフェでの注文などオーセンティックな場面での英語コミュニケーションを体験したり、発音に関する専門的な講義を受講したりすることを通して、英語に対する興味と認識を更に深めた（2020年1月25日）。

- ・「Gaidai Festival」：兵庫県立尼崎小田高校から参加した生徒が、英語の4技能を駆使しながら時事問題の英語クイズや、レストランでの英会話即興劇に取り組む課題に挑むと共に、そこでのポイントに応じて得た食材をトッピングするパンケーキ作りに取り組んだ（2020年1月25日）。

- ・新型コロナウイルスの事情により、5限履修のグループ、7限履修のグループ共、当初

の企画を変更し、自分たちの留学経験や英語の学びに対する実感などを伝えながら生徒たちと（英語で）語り合う「交流会・座談会」としてオンライン上で開催した（2021年2月7日）。

○地域環境美化プロジェクトの展開と関連イベントの開催：ゼミとして、子どもたちの地域環境美化に対する意識と実行力を高めることを目的とするプロジェクトを立ち上げ、近隣小学校や地元自治会組織と連携し、また、ボランティアコーナーはじめ学内関連部署、市環境局などの協力を得ながら、子どもたちを含め多数の地域住民が参加する「スポーツ GOMI 拾い大会 in 学園都市」（2016.11.6）や子どもたちの地域清掃活動に関する広報発信や交流をねらいとする「集まれ、ダストバスターズ！」（2017.2.18）の開催など一連の活動に取り組んだ。またその中で、子どもたちの地域美化への意識が単発の行事参加時に留まらず、行事の前・間・後にも継続・発展することを願い、子どもたちにその趣旨や概要などを呼びかけ、学校の協力や保護者の賛同を得ながらメンバーを募る形で「ダストバスターズチーム」を組織し、子どもたちが近所や地域内での自主的な清掃活動の様子を投稿したり、それに応じて学生から活動成果を評価するメッセージなどを返信したりするといった交流活動を展開した。

○地域理解促進プロジェクトの展開と関連イベントの開催：ゼミとして、親子のふれあいや地域の大人と子どもの交流を通して、子どもたちの地域への理解や愛着を深めることを目的とする「プロジェクト」を立ち上げ、近隣の福祉センターと連携し、小学校や地元自然保護グループの協力を得ながら、「高塚山親子ハイキング（オリエンテーリング形式で、高塚山の自然や歴史、周辺の地理などに関するクイズを解きながら歩く企画）」（2017.11.25）や「学園東町防災町歩き（校区内の災害時に関わりのある施設を探し歩き、それにちなむクイズに挑戦する企画）」（2018.1.28）を開催した。

○食育促進プロジェクトの展開と関連イベントの開催：家庭内での子どもの個食化傾向が進む中で、ゼミとして、子どもたちが栄養バランスの取れた食事の大切さを意識しながら、一人でも簡単な料理を作ることができるようになることを目指して、神戸女子大学家政学部とのゼミとコラボする形で「OKA's Kitchen プロジェクト」を立ち上げ、学園東地域福祉センターや北須磨文化センターで年数回調理イベントを実施した。そこでは、参加した地域の子どもたちが栄養についてクイズ形式で学んだり（女子大特色）、毎回のテーマ食材を国際理解の視点から捉えたり（外大特色）、調理の基本を確かめながら「簡単料理」を作ったりした。また、イベント内で子どもたちが双方ゼミの学生たちと対話を重ねながら作成した「簡単レシピ」は、各家庭で実際に調理されることになり、そのチャレンジの様子が各家庭から画像投稿されるなど、イベントで得た体験や知識が食への興味や意識を深め、親子の対話を広げていることがうかがわれた（2018年

②国際貢献活動の展開	2019 年 6 月～2021 年 3 月	度-2019 年度)。 ○カンボジア教育交流・支援プロジェクトの展開 ・公益財団法人神戸国際協力交流センター (KIC) が展開する「カンボジア王国コンボントム小学校教員養成校 (PTTC) における学生指導力向上支援事業 (探究型の授業展開力を有する小学校教員を養成するために、養成校の教官自身が、当該教育方法に対する認識を高めていくよう組織内研修体制を確立していくなど、現地教育現場の主体的な活動を後方支援する取り組み)」に、当該教育方法に関する専門家 (プロジェクトリーダー) という立場で参加し、事業計画案の作成に教育学的見地から指導・助言したりするなど、協力している。特に 2020 年度からは、JICA の草の根支援事業として採択されたことを受けて、PDM の作成や評価システムの構築など具体的な案件に取り組んだ (2019 年度-2020 年度)。 ・ゼミとしての事業貢献も、事業全体の構想の中に当初から組み込み、年度をまたぐ長期的継続的なアクションとして「カンボジア教育交流・支援プロジェクト」を立ち上げ、学生たちの主体的・創造的・共同的な取り組み展開を支援・指導してきた。学生たちは、「探究の学びに関する見識を深め、養成校の教官や学生と意見交換を通して学び合う」「養成校教官の訪日研修プログラムを企画し、教育委員会や市内小学校などとの連絡調整を図る」「老朽化が著しい養成校男子寮の再建を支援するため、クラウドファンディングで資金を調達する」「カンボジアの教育の現状・課題や、ゼミプロジェクトとしての諸活動に対する認識・理解を深め、広く協力が得られるよう、諸媒体を駆使して広報・発信する」などの活動を軸にし、KIC スタッフ、現地 NGO 職員、現地派遣経験を持つ教員 OB ともオンラインでの会議を重ねながら、これまで活動基盤を築いてきた (2020 年度)。
③神戸市立須磨翔風高校「学内教育実習プログラム」でのシリーズ講義及び受講生徒への継続的指導助言	2016 年 4 月～2021 年 3 月	毎年、将来教員になることを目指す生徒を対象とした「学内教育実習プログラム」に参画し、計 8 回の講義・演習 (「下からの道の学び」型の学習イメージづくりや、それらを個別課題 (模擬授業づくり) に反映させていくためのワークショップ等) を実施すると共に、後の一連の模擬授業発表を継続的に参観し、形成的評価の視点から具体的なアドバイスを各回で行っている。
④神戸市立六甲アイランド高校「神戸学」全体発表会審査協力	2016 年 4 月～2021 年 3 月	「神戸学」(生徒たち自身が、神戸に因むトピックや、自分たちの身近な生活・社会に根ざした現実の問題の中から、自分たちなりにその発展・解決・実現などに寄与できる「もの・こと」を探究課題・テーマとして打ち立て、それに主体的・共同的・創造的にアプローチしていく学習活動) の実践において、毎年、全校行事である「神戸学全体発表会」の審査及び講評の一員としての役割を担う。*2020 年度は、新型コロナウイルスの事情で中止となった。

Ⅱ 研究活動					
著書・論文等の 名 称	単著・ 共著の 別	発行または発表の年 月（西暦でも可）	発行所、発表雑誌（及び巻・号数）等の名称	編者・著者名 （共著の場合のみ記入）	該当頁数
著書					
中学校における「特別の教科 道徳」の実践 第 9 章中学校道徳教育における論理的思考・表現 力育成プログラムの開発	共著	2016 年 4 月	北大路書房	渡邊満 他編	123-138
『新教科「道徳」の理論と実践（玉川大学教職専 門シリーズ）』第 4 章第 3 節多面的・多角的に議論 を深める問題解決的な学習	共著	2017 年 2 月	玉川大学出版部	渡邊満 他編	143-153
論文					
「考え、議論する道徳」の定着を図る具体的一方 策 －話し合いの中で妥当な道徳的判断を「線引き」 と共に探らせることを重視して－	単著	2017 年 3 月	日本道徳教育方法学会 『道徳教育方法研究』（第 22 号）	岡本義裕	1-10
Ⅲ 学会等および社会における主な活動					
2016 年 6 月	日本道徳教育方法学会第 22 回研究発表大会（茨城大会） 自由課題研究発表「『考え、議論する道徳』の定着を図る具体的一方策 －話し合いの中で妥当な道徳的判断を『線引き』と共に探らせる ことを重視して－」				